

## 自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“個別ケアによる家庭的雰囲気の中で豊かな人間関係を保ち支えあう暮らしを目指しましょう”を理念としてある。	○	理念がさらに浸透するように努めたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいたケアを実践し利用者が快適な生活ができるように取り組んでいる。	○	職員間でのカンファレンス、ミーティング等を通じて理念を共有し実践に取り組んでいく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域で暮らす大切さや地域に馴染んだ生活がおくれるように家族、近隣の方の来苑時や運営推進会議等を通して理解してもらえよう働きかけている。	○	管理者、職員がともに地域資源の大切さを把握し家族、地域、運営推進会議を通じて理解を深めネットワークを幅広く築いていきたい
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	気軽に訪問してもらえよう雰囲気作りを心がけ又入居者の方と散歩へ行く機会を増やし地域の方との交流ができるように工夫している。職員のあいさつの徹底。	○	行事に招待し、グループホームを少しでも知って頂く機会を作れるように取り組みたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催し、老人会・民生委員の地元の方との交流に努めている。定期的に地域のボランティアに来てもらい交流を図っている。	○	今後も運営推進会議を活かし、地域に理解が得られるように取り組みたい。地域活動にも参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	会議の場で、入居者の方で手が器用な方が多く、手作りの壁掛け・押し花等をレクで作った作品を地域のバザーに提供しても、いいのではと検討中	○	地域交流について、会議等で皆で話し合いをし、地域貢献に役立てれる事を考えて行きたい。
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期的に外部評価がある事で、改善すべき事が知れたりケアの質の向上に繋がるので今後も評価を活かしていきたい。	○	会議の場で常に業務の見直し等の話し合いを行なっているが、定期的に苑としても独自の自己評価を職員、皆ができるものがあれば更に向上に繋がるように思うので取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営会議を実施し、運営報告・サービス内容の報告を行ない又地域の情報をもらいながら、その情報を活用し地域の行事等にも参加を行っている。	○	今後も運営会議を中心に地域の方と支え、支えられる関係になれるように取り組みたい。
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者に関わる窓口の担当者や防災等についてのことなど相談する機会がある。	○	相談できる窓口の活用、情報交換においても市町村との連携を深めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、地域権利擁護事業や成年後見制度を利用している方がいないので再度、必要な方がいないか個々に話し合いをして行きたい。	○	現在は活用される方がいないが今後、いつでも対応できるように日頃から研修会の参加や勉強する機会を作っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から身体的な変化がないか注意し、特に入浴時はチェックするように行っている。又研修会に参加し認識をする。	○	研修の積極的な参加を続ける。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	理解してもらえよう努力していく。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	利用者・家族の意見が表出しやすい雰囲気作りや工夫についても考えたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	家族の面会時などに入居者の日々の生活に関する事をお話したり、苑の季刊誌で日常生活の様子を送付をしている。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	家族の希望や苦情を忌憚無く言えるような環境作りに努めたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	全員が自分の意見を出せるようにアンケートも活用している。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	人員不足が生じた場合は1階・2階協力し合い、臨機応変に対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員を固定化し、なじみの職員によるケアを心掛けている。	○	職員のストレスや仕事に対しての不安要因を改善できるように、職員間で援助に対する考え方や悩みの相談などができるような雰囲気作りに努めていきたい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加できる機会を設け、職員のスキルアップへと繋げている。	○	職員一人、ひとりが、自主的に研修に参加したいという考え方を持ってもらえるように内容を厳選して決めていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市介護保険事業者連絡協議会や大阪認知症グループホーム協議会に加入し研修会や勉強会に参加し情報交換サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	施設外での研修などを大切にし情報交換を行い、サービスに生かしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各職員が日々の中で報告しやすい雰囲気を作るようにしている。	○	法人全体のレクリエーション（日帰り旅行など）又、職員同士の交流会・福利厚生を積極的に行っている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設内研修会など多く実施しスキルアップに努めており、各個人が向上心を持てるように働きかける。	○	研修内外の機会は、できるだけ多く確保していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人から訴えがあったり、不安そうな様子が見受けられた場合は傾聴に努め納得されるまでお話を する。	○  職員と利用者が一緒に過ごせる機会を増やし、気軽に、いつでも話を聞けるような雰囲気作りを努力している。
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時に家族の方と話をしているが、面会時や電話等で家族の意見を求めるようにしている。	○  今後はカンファレンス等に家族の方にも参加を促し家族の方の意見を聞ける場を作って行きたい。
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の環境や状態に応じてサービスの選択肢を相談している。	○  現状維持でいきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の生活歴や身体的・精神状態等を事前に知るようにし、又生活されていた馴染みの家具・布団類を使ってもらう事で少しでも在宅での生活と変わらない雰囲気作りを行っている。	○  体験入所制度を行っている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様の得意な趣味や優れていることに関しては職員が教わるようにして尊厳の維持に努めている。傾聴・共感を心掛けている。	○  もっと様々な面を活かされるよう、色んな事を促してみる。毎日を快適に安心して過ごして頂けるよう努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の背景等も考慮し、家族の考えにも共感しながら対応方法を一緒に考えるようにしている。	○	家族交流会を開催し、家族同士が相談したり、情報交換をし、いろんな方に支え合う事ができ、好評だったので継続していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時などに職員と話す機会を設けたり、ケアプラン作成の際に意見を求めたりするようにしている。	○	今後も家族との連携を大切にしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力を求めている。又外出の機会を利用し馴染みの町に行く機会を作っている。	○	家族との交流が途切れないように、来苑をお願いし、又行事等の参加にも促して行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気のあった同士で過ごされたり、趣味を通じて楽しまれたりして、自然と入居者同士が協力したり、励まし合ったりされる姿がみられる。	○	入居者同士が自然と協力し合ったり、支えあったりができる環境作りを心がけたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホームに関する相談だけではなく、退所後の相談等も受ける事の説明を行っている。又福祉全般の相談の受け入れをしている事も説明している。	○	家族等が気軽に来苑してもらえるように雰囲気作りをし又家族・入居者との信頼関係を大切にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のニーズに合わせた対応が出来るようにカンファレンス・会議等で意見を出し合い又本人の希望を聞きだせるように努めている。	○	本人の希望を聞けない方は家族と相談し又は本人の生活歴や性格を把握し少しでも希望に近づけるように工夫している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者が過去の経験や出来事を語りやすい雰囲気作りを行う。家族が面会に来られた際は少しでも話をする時間を持ち、本人の情報交換をし日常生活に生かせるように努力をしている。	○	今後も情報を得たら全職員が把握出来るように連絡を密に取っていききたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者のニーズに合わせた対応が出来るようにカンファレンス・会議等で意見を出し合い生活支援している。	○	今後も入居者の方が一人ひとりが楽しみ事をもてるように、又それぞれの特技を発揮出来るように支援していききたい。
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成に当たっては家族の意見を聞くように努力し又可能な方は本人もカンファレンスに入ってもらい希望を聞きだせるように行なっている。	○	家族の方の意見・希望を尋ねるも、「任せます」と言われる方が多く、家族の意見を聞きだせるように工夫したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヵ月ごとの見直しをし、モニタリングは毎月、見直しを行なっている。状態変化に応じた随時の介護計画も見直しを行なう。	○	変化が生じた場合は必ず家族にも すぐに説明・意見を求めるように心掛けている。必要に応じては看護師・ドクターにも意見を求めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段から確実な情報伝達を行なう。個別の記録は詳しく、解かりやすくする為3色の色ペンを使用し工夫している。計画の見直しをする前はカンファレンスにて話し合いをし情報を共有している。	○	今後も個別記録は誰が見ても、解かるように工夫していきたい。
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の希望に応じて相談・対応できるようにしている。	○	今後も併設施設・さまざまな機関等連携をとり支援体制を作っていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に地域のボランティアを活用し、押し花・演奏等の実施をしている。地域の行事等にも参加していく。	○	地域との関わりを大切に今後も地域のボランティアを活用し警察・教育機関等も考えていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じて他の事業所・ケアマネジャーと連絡・相談できる体制はある。	○	情報交換を行い、連携を深めていくよう努めたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協力し合える関係である。	○	必要性に応じて協働する体制である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に希望を聞き、現在も昔ながらの医療機関に通われている方もいる。又協力機関も入所時に説明している。	○	病状に変化がある方は家族・専門医・職員で今後の方向性などを話し合う場をもうけ家族・本人の希望を大切にしている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医の協力病院や医師などから協力を得ている。	○	今後も協力病院や医師との連携を強化していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設機関の看護師が、ほぼ毎日きているので、いつでも相談ができ、すぐ対応ができる。24時間、連絡ができる。	○	今後も看護師と連携を密にとり、的確な対応ができるように取り組みたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院や併設医療機関とが連携をとっているため、すぐに対応ができる。	○	協力病院・管理者・家族の方と定期的話し合いをし病院関係者との連携も大切にしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状態に応じ家族・併設医療機関の主治医が相談し今後の方針を決めサービスを行っている。	○	家族・本人・医療機関の主治医との話し合いできる場を増やしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	一度、手探りしながらターミナルケアを経験し、その経験を活かし「できる事・できない事」を見極め、それぞれが安心できる体制を作っていくたい。	○	重度化・終末ケアについて職員が夜間等の対応等も不安であるとの声もあるので、皆で話し合いする場を作っていく安心して取り組めるように今から備えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所時に極力、本人の馴染みの家具や布団を持ってきてもらい環境のダメージを軽減するように説明している。	○	入所の際は家族・本人の意向を話し合いをし又ケア関係者とも情報交換も行い移り住む際のケアには注意を図る。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には個人情報の取り扱いにていて説明をし、また入居者の自尊心を傷つけないように声かけ・介助の際は、さりげない援助ができるよう心掛けている。	○	今後もプライバシーを損ねるような言葉かけや対応に注意し定期的にマナーの自己チェック表を使用し確認していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の方が意見を聞けるようにアンケート等を利用し選択がしやすいように工夫を行っている。	○	入居者の方が自己決定出来るようにまた、入居者・職員ともが納得して生活出来るように話し合っていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力、カンファレンス等で入居者の方の希望を聞き、その人に合わせた援助を行えるように取り組んでいる。	○	職員の手が足りない時はすぐに対応ができない時もあるが、出来る限り入居者の方の希望に添った支援をしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1回、美容師が来苑あるも、ほぼ全員が行き着けの美容院があるので、そこで地域交流も含め利用している。	○	今後も、身だしなみやおしゃれが出来るようにアミューズメント等の買い物に行く機会を増やし、楽しんで頂く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理を行い、また日曜日には皆様とメニューを考え買い物・調理を行う。個々の好みや力を活かせるように心掛けている。	○	朝食のメニューが毎日、パン食である為ご飯食も皆さんの意見を聞きながら考慮していきたい。日曜のお楽しみメニューは好評なので続けてきたい。調理・片付けを積極的に手伝ってくださる方が多い。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一緒に買い物・喫茶・スーパー等に行き本人様の好きな物を選んでもらい購入する機会を作っている。個々の希望を取り入れ外出予定も個々に合わせて取り組んでいる。	○	酒類やノンアルコール等の物をたまには飲んで頂き食の楽しみを持って頂く。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し個々に応じたトイレ誘導を行い、極力オムツに頼らないよう心掛けている。またウオシュレットによる清潔保持を行う。	○	今後もオムツ類の使用を減らし、気持ちよく排泄ができるように支援していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望やタイミング・入浴温度に合わせ気持ちよく入浴して頂けるよう心掛けている。	○	入居者によっては早い時間帯の入浴を好まれたり遅い時間が良いと言われる方もいるので希望に沿って実施できるように考えていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間は個々に合わせて対応。日中、傾眠されてる方については居室で休んで頂けるようにしている。入居者の状況に応じて昼寝をして頂いている。	○	馴染みの布団を持ってきてもらう事で、安眠に繋がっている。
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の興味のあるものを考え日常生活やレクリエーションの中に取り入れるよう心掛け楽しんでもらう。ボランティアを活用し作品作りを行っている。	○	個々の好みや能力に応じたケアをより良いものにしていきたい。今後もボランティア等を活用し日々を楽しんで頂く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて買い物時の支払いや自己管理ができるように支援を行っている。	○	一人ひとりの希望や力に応じて自己管理が難しい方も買い物の際は自分の財布を持ってもらう支援を考えていきたい。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入浴のない日は極力、散歩を促しまた外出する機会を定期的実施し、喫茶店・アミューズメント等買い物へ出かけたりしている。	○	入居者の方が希望される外出が出来るように今後も取り組みたい。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食・行事の遠足等で普段行けない場所へ企画し実施している。	○	家族の協力が得られるように考えていきたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	機関紙を送る際に入居者の方に暑中見舞いの手紙を書いてもらい家族に送付している。希望があれば電話もいつでもできるように対応している。	○	次は年賀状の時期にお手紙のやり取りができるように考えている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	どの方にも気軽に来てもらえるように声をかけている。	○	行事の参加を促したり、交流会を活用し、いろんな方に訪問してもらえるように考えていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止は職員、わかっているが勉強会・研修等を増やし職員全員が深く理解できるように取り組みたい。	○	介護保険法指定基準における身体拘束禁止の対象となる具体的な行為は何かを全職員が勉強できる場を作っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のカギをかける事の弊害は理解しているが玄関前が車道で危険が伴う為施錠している。居室については実施できている。	○	決まった時間だけでもカギをかけないケアをしたいが玄関前が車道で危険性があり不安に思う。玄関前の庭作業をする時には玄関を開放する機会を持っている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定時の人員確認行っている。日中の皆様の服装・所在は必ず把握するよに努めている。	○	本人のプライバシーに配慮し、気づかれない・さりげない介護ができるように職員は努力をしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤・薬品類は倉庫に保管しカギをかけている。包丁・ハサミ等は必ず見守りを行い使用出来るようにしている。針は使用后、本数確認している。	○	誤薬防止の為職員2人で確認。薬セットも必ず二人、確認する。個々に応じて自己管理できるようにしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	食事は必ず職員と同じテーブルでとり、服薬は日付・時間・氏名を確認し服用している。	○	誤薬防止の為職員2人で確認。薬セットも必ず二人、確認する。火災訓練を定期的に行なっている。誤薬・転倒の際は報告書を提出し全職員が把握し又会議等でも体策を取る。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の連絡網や緊急搬送の病院の連絡先の表示。緊急時のマニュアル作成。研修等の参加。ナース・ドクターの指示を仰ぐ。	○	研修で学んだ事、会議で発表する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域運営推進会議にて防災について意見交換を行い近隣の消防団との連携を深めていく、きっかけ作りができた。	○	地域で年1回行われる消防訓練等にも参加する機会を通じて協力を得られるよう働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者の状態が変化した際はその都度リスクについて家族に話をするように心掛けている。	○	行動や欲望などを無理に抑え付ける事なく、本人・家族等の協力を得て体策を共に考えていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は個々の入居者の変化に注意し、水分・食事・排泄等にも目を配り他の職員ともよく話し合うようにしている。どんな小さな変化でも看護師に連絡をするように取り組んでいる。	○	毎日の申し送りの徹底・業務日誌の確認を行っている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人ケースにはさみ、職員が把握できるようにしている。往診には、ほぼ全職員が対応できるように取り組みを行っている。	○	医療機関等の連携を図る。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日のラジオ体操・リハビリ体操の実施、または便秘の方は薬を頼るのではなく朝にバナナヨーグルトを提供する事で改善された方もいる。	○	便秘一三日目、または本人の状態に合わせて看護師に報告を行う。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・晩の歯磨きの声掛けの実施。介助の必要な方は朝・昼・晩、実施をしている。イソジンうがいには毎食前に全員行っている。	○	専門家の医師に相談や定期的な受診できるように体制を考えたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えシルバー食の献立を提供している。また水分に関してはその都度、チェックするので把握しやすいので水分が少ない方はスポーツ飲料等の飲みやすものを提供している。	○	おやつにも旬の果物等を取り入れ栄養のバランスを考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	消毒液で毎日、拭き掃除の実施。食前・帰苑時にうがい・手洗い・手指消毒を実施している。入浴の際皮膚、観察を行っている。常に体調の観察を行う。	○	研修で得た事を活かし体策の徹底に努めたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等の衛生管理を徹底し、夜勤者は毎日、スポンジ・まな板等ハイターづけを行っている。食材が届くとすぐにチェックし日付記入後、冷蔵庫等に片付けている。	○	今後も注意し環境整備・調理方法にも気をつけたい。毎日・毎食の検食をし冷凍室に保管している。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	周辺で野菜や花を育て、ブラインドやカーテンを開き開放的な空間をつくるようにしている。	○	今後も安心して出入りが出来るように取り組みたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節感を味わえるよう壁画作り、トイレの中の造花等、家と変わらぬ生活感をつくりだすように工夫している。常に清潔を心掛けている。のれん等を飾り自宅のようにくつろいで頂く。	○	今後もより一層工夫をしたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前に4人掛けのソファを置き、また自由の空間作りを作る為に手作りのソファの数を増やす。	○	個々が安心できる空間作りを工夫していきたい。また職員も日々の生活の中で気配りをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入所時に本人が使用していた家具や布団等をも つてきてもらい居心地よく過ごせるよう、また家庭 的雰囲気を作るように工夫している。	○	居心地がいいと思ってもらえる居室作りに配慮し ていきたい。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	居室・共有スペース共に朝一番・掃除の際は窓 を開け換気を行うようにしている。また湿度・温度 によって換気も定期的に行っている。	○	失禁・放尿がみられるお部屋には家人さんと相談 しながら消臭剤・ポプリ等を置いたり・家人さん 自ら空気洗浄機を設置して下さり。積極的に協力 して下さる。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	施設内には必要な場所に手すりなどを設置し、居 室内に手すりが必要な方は家人さんと相談のもと 設置を行なう。またベット生活が危険な方は布団 で対応している。	○	入居者の方が安全で、出来る限り自立した生活が 送れるように工夫していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	個々の状態や理解力を把握し、本人の出来る事を 活かし対応している。	○	人格を尊重し、自尊心やプライバシーを損ねない ように注意し対応している。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ベランダ等に四季の花を植えたり、建物の周囲に は野菜等も育て入居者の方も楽しめる。	○	入居者の方で昔、畑をされていた方と一緒に苗を 購入したり水やりも入居者の方が自ら進んでして 下さる。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個別ケアによる家庭的な雰囲気の中で豊かな人間関係を保ち支えあう暮らしができるよう支援しています。